

# 1992年夏期講習におけるババの御講話

## 神の愛の力

愛は神の御姿  
愛だけが、愛と融合することができる  
神の愛に満たされたとき、  
人は神と自分が一つであることを経験する  
幸せは純粋な愛から湧き上がる  
純粋な愛こそが、  
真理、正義〔ダルマ〕、平安、堪忍寛容〔クシャマ〕の源泉

学生諸君！ 神の愛の化身たちよ！

古来のバーラタ文化の評判は、今、三つの邪悪な傾向によって汚されています。それは、自賛、他人を中傷すること、偽善です。この原因は何でしょう？ それは、人が俗世の快樂を追い求め、純粋な愛の栄光を忘れていていることにあります。

バーラタ〔インドの正式名、神を愛する者の意〕には、「プレーマ」という言葉を知らない人はいません。全宇宙はプレーマで満ちています。プレーマは無類のものであり、説明不可能なものです。ナーラダ仙は、「愛は言葉を超越している」（ア Nil ヴァチャニヤム プレーマ）と明言しました。

### プレーマとアヌラーガの違い

人間レベルでは、この愛〔プレーマ〕は様々な形をまといまいます。愛という言葉は、母と子、夫と妻、主人と使用人、師と弟子といった人間関係と結び付いた一般的な用語として使われます。しかし、こうした人と人との間の愛は、本当の愛ではありません。これらをプレーマと呼ぶことはできません。これらは「アヌラーガ」（執心）にすぎません。プレーマは、神に向けた完全な愛だけにあてはまります。プレーマには私心がまったくありません。プレーマは、世界のどこかからやって来ることもしなければ、空から降ってくることもありません。プレーマは「サハジャ スワルーパ」（固有のもの、独特な化身）です。

今、人は、この神聖で恒久的な愛を忘れてしまっています。世界には愛〔プレーマ〕と等しいものは何もありません。愛の甘さと比べれば、アムリタ（神聖甘露）さえ味気ないものに感じます。この愛は、帰依者も、そして、神も、法悦に浸らせて踊らせます。この愛は踊りで自らを表現します。こうした愛は、利己的な人のハートの中には居場所を見つけることができません。この愛は、清らかで、利己的でない、敬虔な人のハートの中だけに住まうでしょう。

諸聖典は、この愛をダイヤモンドに喩えています。ダイヤモンドはどこで見つけられますか？ 普通のダイヤモンドが頑丈な金庫で厳重に保管されるなら、愛という貴重なダイヤモンドを保管するには、さらにどれほど安全に気をつけて保管しなければならないでしょう？ このダイヤモンドを他の人々に授ける資格があるのは誰でしょう？ 愛に満たされた者、常に愛で自分を養っている者だけに、その資格があります。愛を授ける資格を有しているのは、神だけです。愛の化身であり、愛の価値を知っている、神だけです。

ですから、神に対するあなたの愛が大きければ大きいほど、あなたが経験する至福は大きくなります。あなたの愛が減った分だけ、あなたの至福も減ります。あなたの愛の程度が、あなたの至福の大小を決めるのです。

現代人が神に示す愛は、利己心でいっぱいです。その愛は、何か望みをかなえてもらうことを目的としています。けれども、愛〔プレーマ〕は代価を払って手に入れる商品ではありません。愛は期せずして授けられます。

### 純粋な愛は神へと到る王道

神を悟るための道は数多くあります。その中には、「平安の道」(シャーンティ マールガ)、「友情の道」(サキーヤ マールガ)、「執心の道」(アヌラーガ マールガ)、「情愛の道」(ヴァーツアルヤ マールガ)、「甘さの道」(マドゥラ マールガ) というものがあります。この五つの道にはどれも、いくぶんか私利私欲の要素があります。しかし、「純粋な愛の道」(プレーマ マールガ) には、利己心は一切ありません。したがって、他の一切の道は、この愛の道に融合します。それゆえ、純粋な愛は王道です。

私たちは、その愛が万人の中に存在しているということを頭に入れておくべきです。その愛は神の姿です。神は万人の中に存在しているのですから、あなたが誰を愛しても、あなたは神を愛しているということになります。現代人は、崇高で一切への慈悲にあふれる愛の概念を忘れて、狭苦しい路地で道に迷っています。

人々の間に人と神との愛を促進するために、神は時あるごとに地上に下ります。何を目的として降臨するのでしょうか？ 愛の原理を促進することが、神の第一の目的です。

愛の原理の真の意味を理解できずに、人は人生をだめにしています。愛はすべての生き物の中に等しく存在しているということに、誰もが気づくべきです。しかし、その愛は、世俗の生活で様々な人間関係の中に姿を見せるときには、多くの異なった形をとります。夫婦間の愛は「モーハ」〔愛執〕と名付けられています。母と子の間の愛は「ヴァーツアルヤ」〔親子の情愛〕と呼ばれます。知人や血縁の間の愛は「アヌラーガ」(執心)と呼ばれます。神に向けた愛は「バクティ」(信愛)と名付けられています。

愛は一つですが、このように多様に表現されるのです。経験は様々でも、目的地は一つです。現象界で命をつないでいくために、愛はこういった多様な形をとるのです。愛の形

は人間関係に応じて始終変わります。

しかし、純粋な愛は変わりません。今、そのような純粋な愛が、人間の私利私欲によって制限を受けています。

### 人間の愛はいかに時と共に変わってしまうか

生まれるとすぐ、幼子は母の胸にしがみつき、これぞ楽園だと思えます。大きくなると子どもの関心は教育に移り、母親のことは忘れてしまいます。少年時代は、スポーツやゲーム、勉強や気晴らしの中に愛を経験します。教育を終えると、家庭生活に入り、五感の快楽に浸ります。その後は、富を得ることに関心に移り、妻子への関心は薄れます。しばらくすると、富への関心も失い、思考を神へと向けるようになります。このように、人は人生の段階ごとに、様々な対象物に向けて自らの愛を表します。

(ここでスワミは、人間の愛が時あるごとに変わる様子、人間が神への愛を育てることをせずに最終的に人生を無駄にしてしまう様子を描写した、歌をお歌いになりました。)

学生諸君！

愛はあなた方の人生の途中で入ってくるものではありません。愛はアトマ原理であり、どんな時も、いつもあなたと共に存在しています。その愛が時々変わってしまうのを許してはなりません。あなたの思考の一切を、愛の表現へと変えなさい。自分が行うどんな行為も神への捧げものだと考えることが、一番の靈性修行の形です。あなたがどんな善い行いや靈的な行いをして、そこに愛が詰まっていなければ、価値はありません。

### 愛是水夫の羅針盤のようなもの

愛は、常に北を指す水夫の羅針盤に喩えられます。愛は、あなたが行う行為の一つひとつが神に向くようにさせます。これよりも偉大な道、偉大な目的地はありません。あなたの靈性を変容させるには、学識や儀式礼拝は役に立たないでしょう。あなたのハートを神の愛で満たしなさい。そうすれば、国は平和を享受するようになるでしょう。あなたが見る世界は、あなたが掛ける眼鏡の色の着いたものになります。あなたの見方が愛で満ちていれば、全宇宙は、神で満ちたもの(ブラフマ マヤム)として現れます。これは、現代の若者に最も必要なことです。

愛は、体とは関係ありません。愛はハートに基づくものです。愛は万人に等しく存在しています。体に基づいた関係には様々なものがあるでしょうが、アトマに基づいた親しい関係は一つであり同じです。

エーコーヴァースィー サルヴァブータンタラートマー  
(唯一者が万物に宿っている)

愛は様々な電力の電球に共通する電流のようなものです。

愛にはひとかけらの利己心もありません。不幸なことに、現代人のハートは愛のない不毛なものになっています。そのため、人々は思いやりに欠けています。現代人はジャングルの野生動物よりも残酷な行動をとっています。人と人との間に憎しみが存在しています。母性愛はものめずらしいものとなり、兄弟の間に兄弟愛がありません。パーンダヴァ兄弟の間の愛、ラーマと弟たちの間の愛は、兄弟愛のこの上ない手本です。

### クリシュナに向けた一意専心のダルマジャの信愛

パーンダヴァ兄弟は、試練と苦難の一切を神への信心によって乗り越えました。長兄のダルマジャは、いつも心をクリシュナに集中させていました。ダルマジャは、クリシュナへの一意専心の純真な信愛で知られていました。ダルマジャは、いつもクリシュナのことを考えていました。追放生活の中であらゆる類の困難を経ているときでさえ、そうでした。自分の子どもたち（ウパパーンダヴァ）がアシュワッターマに殺されたときでさえ、ダルマジャはクリシュナへの信心ゆえに、悲しみに飲まれることはありませんでした。強力な王として君臨していたときも、得意に思うこともなければ、厳しい試練に圧倒されることもありませんでした。パーンダヴァ兄弟にとって、一番はクリシュナで、世界はその次、自分の利益は最後でした。まず神、次が世界、最後が自分です。

カウラヴァ兄弟の優先順位は、順番が違いました。まず自分、それから世界、最後が神です。その結果、彼らはすべてを失いました。パーンダヴァ兄弟は神を先頭に保っていたので、最終的に努力が実って成功を収めました。もし人生で成功したいなら、最強の武器である神の愛を身に付けなければいけません。古代の聖仙が森で野生動物たちと和合して暮らすことを可能にさせたのは、愛です。愛の力は、それほどのものなのです。ところが、現代の学生たちは、そうした純粋な愛の力をわかろうとしません。その代わりに不純な欲望に浸り、貴重な人生を台無しにしています。

牧女（ゴーピカー）たちは、神への愛の最も崇高で純粋な形の範例です。

（ここでスワミは、牧女たちが、干乾びた私たちのハートにクリシュナの甘露のような愛の雨を降らせてください、とクリシュナに祈った歌をお歌いになりました。）

神の愛は、アムリタ（神聖甘露）よりも偉大です。それは、パラー バクティ〔最高の信愛〕、神への信愛と呼ばれています。それは人生の四つの目的（プルシャールタ）を超越しています。

人は、肉体や、心〔マナス〕や、理智（ブッディ）や、内なる道具（アンタフカラナ）を愛するかもしれませんが、肉体への愛は肉体の死と共に終わります。心への愛は、心の逸脱ゆえに、束縛という結果をもたらします。理智への愛は、尽きない考えと問いという結果をもたらします。内なる道具への愛は、エゴの感覚〔自我意識〕を強めます。それは

二元性(人を神から離すこと)を強めます。自分とアートマは一つであるということを悟った人は、無限の至福、永遠の至福を経験することができます。

### 「私」というものの本質を調べよ

誰もが、人生の最終的な目的の探求に着手すべきです。たとえば、ギーは凝乳やバターへと変わるプロセスを経て牛乳から作られる産物であるということを、私たちは知っています。この探求のプロセスは「ミマームサ」と呼ばれています。「私」というものの本質を調べなければいけません。「私」は、自分は肉体、心、感覚器官、その他のものの所有者である(私の体、私の心、等々)と主張します。もしあなたが体や心などではないとしたら、あなたは何者ですか？ 誰かこの線に沿った探求に従事している人はいますか？

人間は「マーナヴァ」と呼ばれます。このサンスクリット語には二つの意味があります。一つは、「人間は無知に陥ることなく生きる者である」というものです。もう一つの意味は、「人間は新しい者ではなく、長い過去を持ち、多くの過去生を経ている」というものです。これらの意味がヴェーダーンタの句の用語の中に見出されるとき、人間として生まれることの偉大さは明白になります。それは人を歓喜で満たします。

学生諸君！ 今の世の中は争いと暴力で爆発寸前です。平和と安全がありません。恐れが国に蔓延しています。恐れを取り除くためには、アバヤトワム(無畏[むい]、恐れのないこと)を得なければなりません。どうすればそれを手に入れることができるでしょう？ 欲望と執着を減らすことです。

学生諸君！ 道徳心と善い行いを身に付けなさい。模範的な生活を送り、国に奉仕しなさい。教育の唯一の目的は、謙虚さと規律を育むことにあります。両親を敬い、神への愛を持ちなさい。これが真の教育です。

1992年5月30日

布林ダーヴァン

Sathya Sai Speak Vol.25 C21